

## 解答

- |         |       |      |       |       |     |
|---------|-------|------|-------|-------|-----|
| 問1      | 1 音   | 2 座  | 3 下手  | 4 積極  | 5 満 |
| 6 目指(差) | 7 不評  | 8 降  | 9 看板  | 10 筋  |     |
| 11 映    | 12 効果 | 13 浴 | 14 犯罪 | 15 報告 |     |
- 問2 A 鼻 B 首 C 口
- 問3 消しゴムやカラーボールに波型の切れ込みが入るといふ現代の科学では説明できないことが偶然二回起こったのは宇宙人のせいだと考えるのが合理的だから。
- 問4 ウ
- 問5 とにかくおとなしくて目立たない子ども
- 問6 「テレビの真似はよくない」という坂口の発言で、「宇宙西遊記」の案が退けられたこと。
- 問7 自分で創った不思議体験だが、その興奮を早く誰かに伝えたいという気持ち。
- 問8 以前から僕らの冒険・探検話が大好きで、小さなことにも驚き、感動し、それをみんなに言って回る癖があるマサトに幽霊話をすればクラス中に広がるだろうと思ったから。
- 問9 オ
- 問10 ア
- 問11 エ
- 問12 見もしなかったウソの幽霊話はみんなが信じたが、後ろめたかったので、目撃したと確信した弁天様の化身の話は誰にも話せなかった。思いどおりにならないことにいらだちながら、とにかく誰かに信じてほしかった。
- 問13 イ

## 解説

出典は、高野秀行「またやぶけの夕焼け」〈集英社〉。

- 問2 慣用句・慣用表現の問題は、語句の意味・用法の問題（問10）とともに頻出です。□補充形式ですから、前後の場面・文脈をしっかりと理解したうえで推理します。A 「宇宙人がうちに来ている」と主張する僕は母は半ばバカにして相手にしていません。「鼻で笑う」は相手をばかにして笑うようす。「鼻であしらう」（相手のことを軽くみていいかげんにあつかう）とともに覚えておきましょう。B 僕の幽霊話を疑い、「おかしい」という斉藤にクラスの間中も同意し「首をひねり出した（納得しかねて思案する）」という場面です。C 幽霊話はどんどん疑われ、追いつめられた僕は「口を尖らせ」て不満な気持ちを表しています。

- 問3 僕はその頃二冊の本の影響を受けていました。『世界の不思議』とシャーロック・ホームズ（イギリスの小説家コナン・ドイルの推理小説の主人公、またそのシリーズ）。自分の消しゴムに波型の切れ込みが入っているのに気づいた僕は、「世界には現代の科学でも説明できない謎がたくさんある」という本を読んでいたから、僕の消しゴムもそうじゃないかと考えます（2ページ10～14行め）。一方、ホームズからは「観察と理屈」「よく見て、いちばん理屈に合う答えを探す」ことを学んでいました。「物置にしまっておいたカラーボールにも同じ波型の切れ込みを見つけた」僕は「現代の科学で説明できないものが、たまたま二つ僕のところにあるわけがない」と考え、「宇宙人がうちに来ている」というのが「合理的な答え」であると結論したのです（2ページ15行め～3ページ3行め）。その時点で僕が影響を受けていた二つの考え方を組み合わせて導いた結論だったことがわかるようにまとめましょう。

- 問4 「合理的な答えはただ一つ。／『宇宙人がうちに来ている』——すごいことだとばかりに母に告げると「あっさり片づけ」られ、反論しても鼻で笑われ、「グーの音も出ない（すっかり言い負かされてひとことも言えない）」面白くない気持ちでいる時に弟が「僕もね、この前UFO見たよ」と話し始めました。自分の「宇宙人の仕事」説が母に相手にされなかった不満、どうせ弟のUFO話も相手にされるわけがないのに、というところから生まれた「イライラ」と考えてよいでしょう（↓ウ）。ア「弟の話をお母さんが本気で信じているようなので」↓弟の話に母がまともに応対するのは4ページに入ってからです。イ「宇宙人の仕事」説を唱える僕です。UFOの話は「わかりきったウソの話」と否定するでしょうか。エ 前半はいいとしても「腹立ちまぎれに弟を言い負かしてやろう」が×。オ 「自分よりも不思議な体験し驚きと嫉妬」が×。

問5 「以来」と思われるようになった」という表現から、直前に「ちょっと変わったやつ」と思われるようになったエピソードが書かれているだろうと推理することはできます。「鉄橋復しゅう事件」の話をさかのぼります。4ページ16行め「それが四年生になって変わつた」この表現より前に「変わる」前の僕について書かれていることが予測できます。4ページ12行め「三年生まで、僕はとにかくおとなしくて目立たない子どもだった」同ページ14行め「クラスの友だちからも、いい意味でも悪い意味でも注目されることはなかった」も内容的にはよさそうですが、「二十字以内」という条件でうまく切り取ることができません。

問6 「命取り」の辞書的な意味は、①病気など、死の直接または間接の原因となるもの。②地理・名声・財産など人の大事なものを失わせる原因となるものやことから。ここでは②の意味で使われています。まずは——線部中の「それ」が指す内容から確認しましょう。——線部直前の「テレビの真似はよくないと思います」という、女子の委員である坂口の発言を指しています。この坂口の発言が原因で「死んでしまった」のは何か？ 6ページ5行めの内容から、文化祭で「宇宙西遊記」という劇をやるという僕の提案が退けられたことをこのように表現したのだということが読み取れます。

問7 6ページ14行めから描かれている下校の途中、「こぐり」と呼ばれている場所で車のヘッドライトに白いぼんやりしたものが浮かんできたような気がします。「白っぽいもの」では面白くないと考え、白いコートを着た女の人が車を通り過ぎた直後、すっと消えてしまったことにしようと「幽霊話」を創作してしまいます。そして——線部直前、「そう自分に言い聞かせると、なんだか本当に女の人を見たような気がしてきました。ついに僕も不思議体験だ。怖いよな、ワクワクするようなこの気分を誰かに伝えたい」と「思わず、走り出してい」ますから、早く伝えたい、というような急ぐ気持ちを表す一言をつけ加えるとよいでしょう。

問8 ——線部直後に『え、あそこで？ ホントかよ！』と興奮していた。／『おい、阪野がさ、すげえもん、見たってよ！』とクラス中にふれまわることが「想像」できたのは、なぜか？ マサトと僕の関係やマサト自身のことが述べられているところはないか？ ——5ページ7～14行め「僕の冒険や探検を大げさに言いふらすやつもいた。マサトだ。ハ幡様に一緒にノコを捕りに行ってから、マサトとは仲良しになっていた」「どこか素朴で、ちょっとしたことにすぐ驚いたり感動したりして、しかもそれをみんなに言って回る癖があった。／マサトは僕らの冒険・探検話が大好きで」とまわりの子に話して聞かせるのだった」とあります。今までの経験からも、マサトに話せば自分の「不思議体験」の幽霊話も一気にクラスに広まるだろうと予想し、そのとおりになったのです。

問9 僕の幽霊話を疑う級友も現れいったんは否定的な扱いを受けますが、「昔あそこで若い女の人が交通事故で亡くなった」という長谷川真理の発言で一挙に形勢逆転、幽霊話はクラス中に、さらに他のクラスにまで広まります（9ページ6行め）。「何回も何回も繰り返して話しているうちに、自分がそれを見たことを確信するようになってきた。その女の人が着ていたコートの縫い目まではっきり目に浮かぶのだ」（9ページ17・18行め）。しかしそれはやはり根拠のない嘘——「阪野、ウソ言ってるんじゃないの」と疑われると、一瞬にして話の核心である女の人のイメージがあやしくなってしまうことを「ばわつかすむ」と表現しています（↓オ）。ア「周囲に自分の話をなかなかわかってもらえず」↓クラスから他のクラスへと幽霊話は広がっている状況ですから×。イ「女の人の服装まではっきり覚えていないこと」に限定している点が×。ウ「怖いと思わなかった」ことは「不思議体験」そのものが嘘であることの理由（8ページ4～7行め）ですから×。エ「女の人を見た時の恐怖が一気によみがえってきて」が、8ページ4～7行めの内容から×。

問10 「気色ばむ」の辞書的な意味は、「怒りを表情や態度に表す」「むっと」急に心の中にいかりを感じるようす（↓ア）。イ「大声を出す」× ウ「やけになる」× エ・オは場面状況にあてはまりません。

問11 人一倍怖がりである自分が、「怖くない」ということは、今回の幽霊話はやはり「ほんとうじゃない（嘘）」と僕は気づいてしまいます。自分がウソをついていると自覚させられることがいやで通学路の「こぐり」を一人のときは避け、遠回りして家に帰るようになります。ところが、それを見た者が「阪野はあの幽霊の場所が怖くて、一人のときはすごく遠回りしてる」とみんなに話し、幽霊話はますます「本物っぽく」なっています。そして、——線部、幽霊話を「思い出したくないんだ」と正直に言うと「それもまた同じ結果になった」——「こぐり」を避けて遠回りして帰るのを見られたために幽霊話が「本物っぽく」なったのと同様、幽霊話を僕が避ければ避けるほど、幽霊話は本当だとみんなが思うようになった——以上の内容に合致するものを選びます（↓エ） ア「ウソをついたことを遠回しに伝えようと」× イ『こぐり』で体験した恐ろしさから× ウ カッチャンだったら、と考えるのは11ページ1～7行め。場面が異なります。オ「周りの子どもはウソがばれそうで苦しんでいる『僕』を困らせよう」×。

問12 「弁天様が白い蛇になって現れ、池の中を泳いでいく」という物語を読んで、何ヶ月か前に「目撃した」ことを思い出します（11ページ9行め）。「僕はすごいものを見てしまったのだ。興奮して、誰かに話したくなかった。でも、この前、幽霊を見たときデマを流して、先生に注意されたばかりだ。結局、学校では誰にも言わなかった。カッチャンにも言えない。幽霊話の件でどこか後ろめたかった」（11ページ19行め〜12ページ1行め）「しかたなく、お母さんに言ってみたが、笑われただけだった。／＼どうしてこうなるんだ！——思いどおりにならないいらだち——見もしなかったウソの幽霊話は、ブームになるほどみんなが信じたのに、本当に目撃した弁天様の化身の話は誰にも話せない、誰にも信じてもらえない——「しかたなく」弟に「あれは絶対に弁天様の化身だったんだ」と強く言います。『どうしてこうなるんだ！』の一言に表れた僕のいらだちの理由をおさえましょう。「しかたなく」がくりかえされています。積極的な行動ではない点にも注意が必要です。

問13 カッチャン軍団やカッチャンについて述べられている部分・表現を基準に、選択肢の内容を検討します。「カッチャン軍団でも学校でも『不思議な話』が流行っていた」（2ページ・2行め）と始まり、4ページ12行め〜5ページ16行めでは、「カッチャン軍団に参加し、妙な活動を繰り広げ」る中で僕が大きく変わったことが述べられています。幽霊話の発端では、「僕は、カッチャンならどうするだろうと思った。最近、僕の行動の基準はカッチャンである。／＼カッチャンは無理でも自分のやりたいことを押し通す。『面白ければいいんだ』と言うに「がない」とカッチャンのことを考えています（7ページ10〜12行め）。しかし、幽霊話がブームになり、先生から「デマ」という注意を受けた直後、「／＼カッチャンは同じ無理をするにしても、自分が信じていないことは言わないし、やらない／＼カッチャン本人は心の底から信じてやっている。ウソとか何かをする『ふり』はカッチャンが最も嫌うものだ。カッチャンは僕がウソをついたと知ったら、軽蔑するだろうな……」と思い返しています（11ページ1〜5行め）。（↓イ）ア「／＼考えすぎたあまり、／＼自分には手の届かない存在だと思ふ」×ウ「／＼気に入られようとがんばっていたが／＼カッチャンの怖さにおびえるようになった」×エ「／＼寂しさがつので、カッチャンの薄情さを痛感する」×オ「カッチャンには『僕』のすることを全く認めてもらえなかったため、カッチャンを身勝手な人物だと思ふようになった」×